

令和7年度
訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業(実証事業)
「金沢市における観光データ分析システムに基づく
観光地経営の高度化及び効率化に向けた実証事業」

業務報告書(概要版)

2026年3月

1. 業務概要

1-1 業務目的

持続可能なあり方で旅行需要の本格的な回復を図るためには、ストレスフリー・バリアフリーで快適な旅行を満喫できる環境及び、**非常時においても安全・安心な旅行環境の整備**を行うとともに、**地域住民にも配慮した受入環境の整備**が必要である。

管内のうち石川県金沢市では、国内外からの来訪者が増加する一方、来訪者が集中する一部の地域や時間帯等によっては、**過度な混雑等による地域住民の生活への影響**や、**来訪者の満足度低下への懸念**が生じている等の課題がある。

こうした課題の解決に向け、**全国で実践されている観光データ分析システムの活用状況を調査し、地域毎のシステムの特徴や導入経緯、関係者との合意形成過程、当該システムを活用した今後の観光地経営の可能性等の比較分析**を行う。

また、上記調査を踏まえた上で、現在、金沢市で構築中の金沢観光データ分析システム（K-TA）を対象とし、**地域属性によってどのような形式のシステムが適するかを検証**するとともに、**K-TAへの参画施設の拡大に向けたシンポジウムの開催**や、**各施設への個別説明等**を通じて、**K-TAの機能向上・精緻化に向けた取組を支援**する。

上記結果を、**全国の類似課題を抱える自治体やDMOに対して横展開**することで、**システム導入の障壁低減**や、**観光地経営のあり方の一類型の提示**を図ることを目的とする。

1-2 事業概要

(1) 事業名

令和7年度 訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業）

「金沢市における観光データ分析システムに基づく観光地経営の高度化及び効率化に向けた実証事業」

(2) 実施期間

令和7年10月10日（金） ～ 令和8年3月13日（金）

(3) 事業実施地域

石川県金沢市

(4) 実施体制

発注者：北陸信越運輸局観光部観光地域振興課

連携先：金沢市及び（一社）金沢市観光協会

受託事業者：株式会社ケー・シー・エス

2. 各地域における観光データ分析システムの概要及び活用事例調査等

2-1 実施概要

本調査は、全国で実践されている観光データ分析システムの活用状況を把握するとともに、地域ごとのシステムの特徴、導入に至った経緯、関係者及び地域住民との合意形成過程、当該システムを活用した観光地経営の実態、今後の可能性について比較分析を行うことを目的として実施したものである。

これらの調査結果を体系的に整理し、K-TAの高度化及び効率化に向けた検討材料とし、他地域への横展開を想定した手引書へ反映するための基礎資料とする。

(1) 調査対象

国内外からの来訪者に関する属性や宿泊施設の稼働率等の調査に基づく観光データを収集、分析した上で観光地経営を行っている地域及び当該地域で活用する観光データ分析システムの事例5件（石川県金沢市、京都府京都市、福井県、岐阜県下呂市（下呂温泉）、兵庫県豊岡市（城崎温泉）の取組）を調査対象とした。

4-2 実施結果

地域	システムの特徴	運用・体制の特徴	強み	課題・留意点
京都市	日次の宿泊データ（稼働率・ADR等）を収集し、曜日別・施設規模別など詳細な分析が可能	観光協会が主体となり少人数で運用、手入力やExcel提出でデータ収集	分析の粒度が高く、政策立案や議会説明など公的活用に強み	入力負担が残るほか、自動化・効率化の余地がある
福井県	宿泊・人流・アンケート等の多様なデータを統合した観光DX基盤を構築	コンソーシアム形式で運用し、RPAやPMS連携によりデータを自動収集	データの網羅性が高く、広域的・戦略的なマーケティング分析が可能	関係者が多く、運用調整や合意形成に一定の負担
城崎温泉	宿泊データを活用し、需要予測や観光動向を迅速に分析	DMO主体でAPIやRPAを活用し、データを自動連携	リアルタイム性が高く、経営判断や施策判断に直結	有償提供のため参画拡大に制約が生じる可能性
下呂温泉	宿泊人数・年代・交通手段・販売チャネルなど詳細な属性データを収集・分析	DMO主体でPMS連携によりデータを一元管理し効率的に収集	データ精度が高く、経営分析や市場分析に幅広く活用可能	システム整備や運用に一定のコスト・体制が必要
金沢市	宿泊データに加え観光施設入込数など外部データを統合した分析（K-TA）	行政と観光協会が連携し運用	政策立案と事業者支援の両面で活用可能な基盤	参画施設の拡大による精度向上、入力負担の軽減、分析機能の高度化

3. 観光データ分析システムの導入・活用に関するシンポジウムの開催

3-1 実施概要

本シンポジウムは、観光データ分析システムの必要性及び有効性について理解を促進するとともに、構築中であるK-TAへの参画拡大を図ることを目的として開催した。3つの講演と1つの事例紹介、講演者による意見交換会を実施した。

(1) 実施内容

開催日時：令和7年11月25日（火） 11:30～13:30

開催場所：OMO 5 金沢片町 by 星野リゾート

開催形式：対面及びオンラインによるハイブリット形式

3-2 実施結果

参加対象は金沢市内の観光関連事業者等（主に宿泊施設）とした。

参加者数：46名

（対面：29名（宿泊事業者8名）、オンライン：17名（宿泊事業者5名）

■意見交換会 主な意見

①データ活用のメリットとスピード感

・宿泊データは実績と見込み、リードタイム分析により需要予測や予約動向の把握に有効であり、過去比較を通じた販売施策やダイナミックプライシング等の判断材料となる。

・分析結果を分かりやすく提示することで、現場や経営層の迅速な意思決定や観光動向の共有が可能となる。

②事業者視点の要望と外部データ連携

・意思決定にはエリア別・施設属性別などの詳細データや背景情報が重要であり、観光消費額等の総合的把握も求められる。

・京都では免税売上や検索量等の外部データを活用し分析を高度化しており、今後は市場別・顧客行動を踏まえた分析強化が必要である。

③入力負担とシステム課題

・データ入力負担は比較的小さいが、解釈や活用に課題があり、支援体制の充実が求められる。

・入力効率化やUI改善、PMS連携が課題であり、参加施設との関係維持も重要。今後は負担軽減と分析精度向上を両立した仕組み構築が必要である。

■参加者アンケート結果（23名から回答）

①宿泊事業者の意向

・参画事業者は、自施設の販売戦略への活用や市場動向の把握、他事業者との情報交換を主なメリットとして期待している。

・未参画事業者は、費用負担への懸念に加え、データ提供の手間や情報管理に対する不安が障壁となっている。

②宿泊事業者以外の期待

・来訪者数や国籍などの来訪者動向の把握に対する期待が特に高く、加えてイベントや商業施設の来訪分析、周遊状況や消費動向の把握など、観光全体の動きを捉えるデータ活用へのニーズが強い。

③シンポジウム評価と今後の展望

・シンポジウムは高い満足度を得ており、特に具体的な事例紹介への関心が高い結果となった。

・分析の高度化やAI活用、広域連携の推進に加え、地域一体となったデータに基づく観光施策の展開が求められている。

4. 観光データ分析システムの効果的な活用に向けた参画施設等との調整

4-1 実施概要

金沢観光データ分析システム（K-TA）における観光データの精度向上及び活用促進を図るため、金沢市内の宿泊施設をはじめとする観光関係者を対象に、K-TAの参画施設の拡大に向けた調整を行うとともに、システムの活用実態や課題を把握することを目的として実施した。

（1）実施内容

①ヒアリング調査

K-TAに参画している宿泊施設（32施設）を中心に、ヒアリング調査をおこなった。

②DM送付

K-TAへの新規参画を促進するため、金沢市内の宿泊施設（42施設）を対象にDMを送付した。

4-2 実施結果

（1）ヒアリング結果

K-TAは宿泊施設において、自施設の稼働率や客室単価を地域平均と比較するなど、経営状況を把握する指標として活用されている。

一方で、分析結果の理解不足や活用方法の浸透が課題である。

データ公開については、個別施設が特定されない集計データであれば概ね容認されるが、料金水準の印象や社内手続きへの懸念もみられる。

また、入力作業の煩雑さやデータ定義の不統一も課題である。

今後は参画施設の拡大、分析機能の高度化、操作性向上を図るとともに、データに基づく観光施策への活用が求められる。

（2）参画者の拡大

参画候補の宿泊施設に対し、事業目的やデータ活用の意義、参画メリット等を説明し、運用方法や手続きの調整を実施した。

その結果、有用性への理解が得られ、新たに3施設がK-TAへ参画した。

金沢を、データで共に経営する。
～データドリブンな観光地経営への転換～

利用無料
コスト(費用・時間)を
最小限に、経営に活用できる
情報が得られます。

金沢観光データ分析システム
「K-TA (ケーター)」
参画施設 募集中!

K-TAの表示画面
所在地割合の昨対比(宿泊)

①K-TAは金沢の宿泊施設で既に活用されているデータ分析システム
・令和6年10月より本格稼働
・約30施設が参画(拡大中)
・金沢市と金沢市観光協会が運営

②K-TAは行政主導の統計ではなく、現場の経営判断に直結するデータ基盤
以下の指標を分かりやすく可視化し、「金沢全体×自施設」で把握することが可能。
・客室稼働率の推移
・平均客室単価
・3か月先の需要見込み など

スピード
3か月先の需要を見通し、次の一手を素早く判断できる

信頼性
勘に頼らず、共通のデータを基にした経営が可能

広がり
金沢全体で一体感をもった取組が可能

みんなで使うから、意味があります!

宿泊経営は、勘に頼る時代ではありません。
稼働率、単価、需要の波を、金沢全体で、同じデータとして捉える。
これからの観光は「個人戦」ではなく「団体戦」。
街全体でデータを共有することが、金沢観光の未来をつくれます。
ご相談は大歓迎です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ】
一般社団法人金沢市観光協会 TEL: 076-232-5555 E-mail: kankoukyukai@k-ta.jp
作成年月: 2026年1月

5. 観光データ分析システム導入等に係る手引書及び事業実施報告書の作成

5-1 手引書の作成

手引書は、他地域がデータ駆動型の観光経営を検討する際の具体的な道しるべとして作成するものである。

(案)

観光データ分析システム導入等に係る 手引書

令和 8 年 3 月

国土交通省 北陸信越運輸局 観光部

5-2 手引書の作成事業実施報告書の作成

本事業において実施した取組内容を取りまとめ、事業報告書として整理した。